

リュウキュウアユ産卵地整地作業

11/12 (土)

又野さんや支所の方の協力でも今年も作業ができました。来年のリュウキュウアユの観察の時には、きっとたくさんのアユたちがあうことができるでしょう。これからも、この住用を、住用に住む人たちの手で守っていきましょう。

安心して卵産めるように

リュウキュウアユ産卵地作り 住用小

奄美市住用町の住 校長 生徒10人)は
用小学校(久永浩幸 住用中学校(原憲正



川底を整地する参加者たち (提供写真)

13日、学校近くの役勝川下流でリュウキュウアユの整地作業を行った。今年も無事に産卵できるよう、児童や保護者、学校職員、奄美市住用総合支所職員ら約40人が冷たくなった川の中に入り、大きな石を除去したり、川底を整えたりした。

奄美大島だけに生息するリュウキュウアユは、環境省レッドリストの絶滅危惧

IA類に、県では希少な。沖縄では絶滅し少種に指定されている。ており、奄美大島の



参加者全員で記念撮影 (提供写真)

リュウキュウアユを放流して研究者などが復元に取り組んでいる。成魚の体長は10〜15センチほどで、日本本土のアユと比べやや小型、11月下旬頃から産卵を始める。産卵に間に合うよう、同校では毎年、産卵地の整地作業を行っている。また、例年7月に講師を招いて「リュウキュウアユと奄美の川の生き物」について理解を深め、観察学習を行っている。

この日は最初に(株)マングローブ公社 養殖専門技術者の又野峰蒼さんから▽30センチの大きさの石を除去する▽除去した後にクワなどを使って平らにならす▽などの説明があり、その後役勝川に入った。川幅5メートル×4メートルの20平方メートルほどの面積を、大きな石をどかし、クワなどで川底にたまった泥を洗い流したりして卵を産みやすい環境を整えた。

参加した橋口ゆいさん(小4)は「参加したのは今年で4回目。川の水はとても冷たかったけど、7月の観察学習で出会ったリュウキュウアユたちが安心して卵を産めるようにがんばった」と話した。

